

謹  
賀  
新  
年



七ヶ浜町舊蒲田浜より  
工陽社 渡辺 撮影

お客様各位におかれましては希望に満ちた新年をお迎えに成られた事と存じます。

平素は弊社をご愛顧頂き心より厚く御礼申し上げます。

早いもので、東日本大震災から今年3月で2年を迎える事と成ります。この間、多くのお客様からの御支援と御協力を頂き感謝するばかりです。

宮城県では、昨年は『復興元年』と位置付け、新たな歴史を刻むスタートの年としました。本年は『宮城県震災復興計画～再生期』を視野に入れ発展の『種』を蒔き復興に向けた取組みを加速させて行くとしています。

復旧・復興への道のりは長く険しいものですが、弊社も震災前の状態に戻す為にも、更に復旧に留まらず将来を見据えた再生・再興する為にも、積極果敢にあらゆる事に取り組んで参ります。

地域の皆様、そして全てのお客様と手をつなぎ、共に確実な歩を進めて参りたいと考えております。一層のご理解とご愛顧の程宜しくお願い致します。

本年が皆様にとって、より前進し最良の年に成りますようお願い申し上げます。

株式会社 工陽社  
代表取締役 鈴木嘉仁

# たくさんの方々に支えられて 工陽社 創業60年 からす1のあゆみ

昭和27年4月	塩釜市尾島町にて創業 ●謄写印刷及び太陽光を利用した青写真焼付を始める
昭和33年11月	法人登録 有限会社工陽社とする
昭和45年～	第1次印刷部門業務拡張 ●各部署に新機種の機材を設備
昭和51年～	第2次印刷部門業務拡張 ●オフセット関連の機材を設備“受注から納品迄”一貫生産体制(内製化)に着手
昭和54年12月	代表取締役 鈴木嘉雄逝去 代表取締役 鈴木ヨシ子就任
平成1年	第3次印刷部門及び複写部門業務拡張 ●電子組版システムを導入(組版用ワープロ・編集機・印画紙・フィルム出力迄) ●大型電子コピー(AO判ロング)、カラーコピー(A3判)を設備
平成1年12月	多賀城営業所開設 ●複写関連の機材とカラーコピー(A3判・A1判)各1台を設備
平成2年	「第1次業務充実計画」を施策 ●オフセット印刷両面機を導入
平成6年	「第2次業務充実計画」を施策 ●多賀城営業所へ両面カラーコピー(A3判)1台を設備
平成10年	「第3次業務充実計画」を施策 ●電子組版システムの充実と画像処理(MAC)システムを導入
平成12年	「第4次業務充実計画」(デジタル化移行)を施策 ●組織改革・意識改革・経営改革を実施
平成13年	「第1次複写部門デジタル化」を施策 ●データ入出力、デジタルファイリング処理加工を実施
平成14年	「第2次複写部門デジタル化」を施策
平成15年	「ISO 9001/2000」認証取得 1月13日付
平成16年	「第3次複写部門デジタル化」を施策 ●カラーマネジメントシステム・カラーオンデマンドシステムを導入
平成17年	「第4次複写部門デジタル化」を施策 ●デジタルモノクロ大型電子コピー(出力機)を導入
平成18年	第4次印刷部門業務拡張 ●CTP化/SDP1630IIIを導入
平成19年	「第1次業務改善計画」PART1 ●POD化/ゼロックス1256GA F360 C3250導入
平成20年	「第1次業務改善計画」PART2
平成20年12月	「ISO 9001/2008」改訂
平成21年	「第1次業務改善計画」PART3
平成22年	「第2次業務改善計画」PART1 ●POD化/ゼロックス5151P導入 ●電子化業務着手/文書図版データ化作業
平成22年1月	自社独自の「情報保護規定」作成
平成22年7月	代表取締役 鈴木ヨシ子退任 代表取締役 鈴木 嘉仁就任 株式会社工陽社へ商号変更
平成23年3月	“3.11 東日本大震災”被災 印刷機・製本機・関連機材の全てを消失。社員全員が共に復旧・復興・再生に向けて歩み出した



初代社長 鈴木嘉雄



二代社長 鈴木ヨシ子



平成元年 社員旅行「最上川舟下り」



三代社長 鈴木嘉仁



平成22年6月30日 二代社長退任の会にて



平成24年12月28日 小松館好風亭にて





塩竈市「鹽竈神社」

# わが町の鹽竈神社

伊達家ゆかりの建物として親しまれる鹽竈神社は、古くから朝廷をはじめ庶民の崇敬を集めてきました。奥州一ノ宮として1200年以上の歴史を持ち、平成14年には国の重要文化財に指定されました。

塩土老翁神は古くより航海・潮の満ち引き・海の成分を司る神、左右宮の御祭神は武運・国土平定の神として信仰されて来ました。

そこから海上安全・大漁満足・武運長久・国家安泰の信仰は早くからありましたが、やがて人の生死は潮の満ち引きに深い関係があり、又海が産みに通じるところから安産守護・延命長寿、また別宮の祭神は無事道案内をされ、左右宮の祭神は東北平定を終え凱旋(無事還った)した事から交通安全、必勝・成功(商売や営業の繁昌)等の信仰が

盛んとなりました。更に当社が多賀城の鬼門の守護神であった事から厄除け・方除けの信仰も盛んとなりました。

しかし地元の方々はどうな祈願もすべて「しおがまさま」へと足を運びます。

そんな鹽竈神社、こんな近くにも同じ名前の神社がある事ご存知でしたか？JR仙台駅東口の初恋通り沿いにある神社。

ここも「鹽竈神社」です。通称「名掛丁塩釜神社」とも呼ばれています。塩竈市の鹽竈神社の分祠であるため、祭神は同神社と同じだそうです。

それから、もっと調べてみると日本各地にはたくさん「鹽竈神社」があると分りました。

## 北海道・東北地方

- ・塩釜神社(白老町) - 北海道白老郡白老町陣屋町に鎮座
- ・塩竈神社(奥州市) - 岩手県奥州市水沢区に鎮座
- ・鹽竈神社 - 宮城県塩竈市に鎮座する全国鹽竈神社の総本社
- ・塩釜神社(仙台市青葉区) - 宮城県仙台市青葉区芋沢に鎮座
- ・鹽竈神社(仙台市宮城野区) - 宮城県仙台市宮城野区、仙台駅東口・初恋通り沿いに鎮座
- ・塩釜神社(宮城県美里町塩釜添) - 宮城県遠田郡美里町塩釜添に鎮座
- ・塩釜神社(宮城県美里町和多田沼) - 宮城県遠田郡美里町和多田沼上屋敷に鎮座
- ・塩竈神社(福島市) - 福島県福島市大笹生に鎮座
- ・塩竈神社(石川町) - 福島県石川郡石川町に鎮座

## 関東地方

- ・塩竈神社(北茨城市中郷町) - 茨城県北茨城市中郷町に鎮座
- ・塩竈神社(北茨城市磯原町) - 茨城県北茨城市磯原町に鎮座
- ・塩竈神社(日立市滑川本町) - 茨城県日立市滑川本町に鎮座
- ・塩竈神社(日立市日高町) - 茨城県日立市日高町に鎮座
- ・塩竈神社(矢板市) - 栃木県矢板市に鎮座
- ・鹽竈神社(東京都港区) - 東京都港区新橋に鎮座
- ・塩竈神社(鎌倉市) - 神奈川県鎌倉市に鎮座
- ・塩釜神社(富士吉田市) - 山梨県富士吉田市新倉に鎮座

## 中部地方

- ・塩竈神社(佐渡市) - 新潟県佐渡市相川江戸沢町に鎮座
- ・塩釜神社(松本市) - 長野県松本市鏡ヶ崎に鎮座
- ・塩釜神社(焼津市) - 静岡県焼津市小浜に鎮座
- ・塩竈神社(名古屋市) - 愛知県名古屋市長久保に鎮座
- ・塩釜神社(豊橋市) - 愛知県豊橋市に鎮座

## 近畿地方

- ・塩竈神社(和歌山市) - 和歌山県和歌山市和歌浦中に鎮座

## 中国・四国地方

- ・塩竈神社(岡山市) - 岡山県岡山市南区に鎮座
- ・鹽竈神社(倉敷市) - 岡山県倉敷市に鎮座
- ・塩竈神社(阿南市) - 徳島県阿南市津乃峰町長浜に鎮座
- ・塩竈神社(東かがわ市) - 香川県東かがわ市引田に鎮座
- ・塩釜神社(坂出市) - 香川県坂出市玉越町に鎮座
- ・塩竈神社(宇多津町) - 香川県綾歌郡宇多津町に鎮座
- ・塩竈神社(今治市) - 愛媛県今治市波止浜に鎮座

## 九州・沖縄地方

- ・塩釜神社(新上五島町) - 長崎県南松浦郡新上五島町西神ノ浦郷に鎮座
- ・塩釜神社(新上五島町) - 長崎県南松浦郡新上五島町神ノ浦郷に鎮座
- ・塩竈神社(新上五島町船崎郷) - 長崎県南松浦郡新上五島町船崎郷に鎮座
- ・塩竈神社(新上五島町立串郷) - 長崎県南松浦郡新上五島町立串郷に鎮座



名掛丁塩釜神社



## 豆知識

### パート13

(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)

## SNS

SNSの代表的なものとして、twitter、Line、Facebookなどがあり、インターネット上でコミュニケーション機能の備わっているサイトなどのことを指し、実際に会った事のある人だけではなく、国内、海外問わず多くの人との交流が可能なのが特徴です。

また、Line、comm、Skypeなどは電話と同じように無料で音声通話も可能です。東日本大震災では、携帯電話の音声通信やメール機能には発信制限がありました。Skypeや、twitterなどには制限がなく、それらを連絡手段として安否の確認などに利用する方もいたようです。しかし、2012年12月7日にあった地震では、「リツイートしてください 地震で家が崩れ外にでられません がれきの中に閉じ込められています。 救助をよんでください」というデマがtwitterに投稿されるなど、一概にメリットばかりではなく、現実会ったことのない人との交流を行う場合にはそのようなデマを見極める必要もあり、それらを理解した上で利用すれば、自分の世界を広げる便利なコミュニケーションツールになるのではないのでしょうか。



印刷屋さん編集委員メンバーの連絡ツールとして利用されている「LINE」

## ミニ情報 春の七草と秋の七草

自分は春の七草は知っていましたが、今回ミニ情報を考えている時に、たまたま目に入ってきたのが「秋の七草」でした。

春の七草はよく聞きます。セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロの7種類の野菜を刻んで入れた七草粥はよく聞きますが、秋の七草って自分は恥ずかしながら今回初めて知りました。ハギ・ススキ・キキョウ・ナデシコ・クズ・フジハカマ・オミエナシを秋の七草って言うそうです。春の七草は食用ですが、秋の七草は観賞用として楽しむ事が出来るそうです。

又万葉の時代に山上億良(やまのうえのおくら)が詠んだのがきっかけで、夏の終わりにから秋にかけての野の草花が「秋の七草」となりました。





## 印刷屋さんの仲間 第3弾!!

今回は「子どもの頃の思い出」です

Part.1

## 満州の思い出

**昭和18年** 寒い北国満州の空にもいつか春が訪れて杏の花の咲く日も遠くない4月末、戦争の真っ最中北満の王爺廟官舎で私は生まれました。万葉集に出てくる「益良夫の鞆の音すなり」の字をとって名付けられました。王爺廟は広い平原に大きな役所が建ち並び点々と小さな宿舎が並び、可憐な名も知らぬ花々が咲き乱れた美しい街だった。



満州時代の鞆子さん

**昭和19年** 中国の南方に太平洋上に戦渦が繰り広げられた頃、満州はまだ表面はのどかで物資も豊かに平和な姿だった。しかし敗戦の暗雲は急速に広がり、父にも召集の赤紙がまい込んだ。9月に生まれた妹と三人の子を抱えた母の苦勞がしのばれる。

**昭和20年** ソ連軍が日ソ不可侵条約を破り侵攻してきたため日本人全員出発の命が下され慌ただしい逃避行の始まりだった。9月には妹は栄養失調の為誕生日も待たず短い生命を終え満州の土に眠っている。いばっていた関東連もソ連の捕虜となり、日本人狩りも行われ実に残酷そのものだった。

**昭和21年** 3月機関銃をならし八路軍が攻撃に乗り込んできたが一般市民に銃を向けることなく新しい中国の建設に努力している様子だった。この頃から引揚話が話題になり、無蓋貨車に乗せられ引揚船の順番を待つ大きな収容所で高粱飯の毎日であった。7月、待望の引揚げ、コロ島の港を出た巨体の船は幾日も幾日も海、海を進みようやく日本の土、舞鶴港へ着いた。妹が眠り多くの喜び、悲しみを与えた満州の山河を離れ、それからが又戦後の貧しさと同じ合う会津での生活の始まりであった。

工務課 制作 佐藤 鞆子

物心ついた時にどうして私に父親がいないのかな」と不思議に思っていた。その時母親にたずねたら私が生まれて3ヶ月目に亡くなった聞かされた。父親の顔は写真でしかわからない。唇の厚いところ等は似ているかなと自分で思う。その時は母29歳だったそうです。それから女手一つで三人の娘を育ててくれた。働いてばかりいて学校の参観日にも来てもらえなかった。廻りの人達をうらやましく思い、時々泣いた事もあった。早く大きくなって母を楽にしてやりたいと常に子ども心に思っていた。親孝行もしない内にその母も一昨年93歳で他界しました。昔の人は良く言っていました「親孝行したい時には親はなし」とても残念です。一番子供の頃にうれしかった事で



左が小学生（修学旅行）の庄子さん

工務課 製造 庄子八重子

今でも忘れられない事があります。それはお正月になるときれいな下駄と赤い足袋を揃えてもらった事は何よりもうれしかった事です。食べ物はこの世間では贅沢は出来ない生活だったが母は口には出さなかったがいつも心に思ってくれたんでしょうね。つらい事は山ほどあったけどこんなうれしかった事を残してくれて本当にありがとう。

左上端が中学時代の小幡さん  
妹さん、近所のお友だちと一緒に

ちょうど、この写真の頃からすぐらいに印刷業に入りました。もう54年も経ちます。今思うとあっという間に過ぎました。

工務課 製造 小幡 稔夫

## 編集後記

今回の特集記事は弊社の創業60年プラス1年の沿革です。いまだ震災の復興半ばと、特に記念の行事とかはありませんでした。ここまで歩んで来られたのはお客様のおかげと感謝申し上げます。また手前みそですが、当社の諸先輩の汗と涙の奮闘の賜物と感謝しています。これからも伝統を引き継ぐべく、新しい工場社を築いていきますのでよろしくお祈りします。



私が子どもの頃は、とにかく絵を書くこと、絵本やマンガ本を読む事、そしてぬりえやきせかえ人形（紙の！）で友達と遊ぶのが好きでした。それと！何より大好きだったのが「こえだちゃんシリーズ」のハウスをいっぱい並べて遊ぶこと！でした。懐かしい〜。



小さい頃の自分の写真を見て思い出しました。今も昔も人気者だ！間違いない！こんな人気者の私を今年も宜しくお祈り致します。



自分が子供の頃の冬の遊びって言えば今と違ってゲームと言った物が少なく、やはり外で遊ぶ事が多く、又雪が降る量もかなり多かったと思います。近所の裏山等に勝手にスキーコース？を作って自作のスキー板や自作のそり等を作って滑って遊んでいました。その頃のゲームは“ゲームウオッチ”と言ったゲームで、パラシュウト・オクトパスだったかな……



今年のお正月に母親が「仙台弁かるた」を家族でしたいと用意していました。何十年かぶりのかるた取り大会！私が小さい頃はよくかるたの他にも、トランプや花札などをしていました。参加メンバーが大人7人小人1人だったので楽勝と高をくくっていたのですが、小学生！おそるべし!!半数以上も持っていかれました…「笑ってるばんつあんの

ちん歯 まつぽいな〜」方言で読むので私や、娘は??? (笑)

たくさん笑ったので楽しい一年が始まる予感です!!

<http://www.tbc-sendai.co.jp/carta3/fuda.html>



小さい頃から親の酒のつまみをねだる子どもで、硬いものばかり食べていたので頭が大きくなってしまいました。



今回は編集委員の小さい頃の写真で集合写真!? 写真にも時代を感じます。私は4人きょうだいの末っ子で、歳も離れているせいか、いつも兄、姉の後を追いかけて邪魔にされ、泣いていた思い出があります。今では逆転し、年老いた兄達の面倒をみえています (笑)



幼少の頃から人一倍礼儀正しい子でした。今もなお礼儀・礼節を重んじ大切にしたい習慣だと感じています。それを“社の風土=社風”とし、愛される人作り・会社作りを進めています。

